

平成30年度 決算報告について

1. 協会けんぽ(医療分)の30年度決算見込み	1ページ
2. 協会の30年度決算報告書(介護保険分を含む)の概要	3ページ
3. 合算ベースの収支(協会会計と国の特別会計との合算)と協会決算との相違(30年度医療分)	4ページ
4. 平成30年度 宮城支部 収支決算について	6ページ
5. 平成30年度 宮城支部 特別計上分に係る経費	9ページ

R1.7.19

1. 協会けんぽ(医療分)の 30年度決算見込み

< 協会会計と国の特別会計との合算ベース >

(単位:億円)

		29年度		30年度	
		決算	(前年度比)	決算見込み	(前年度比)
収 入	保険料収入 <伸び率>	87,974	(+3,833) <4.6%>	91,429	(+3,455) <3.9%>
	国庫補助等	11,343	(▲554)	11,850	(+507)
	その他	167	(▲14)	182	(+15)
	計 <伸び率>	99,485	(+3,265) <3.4%>	103,461	(+3,977) <4.0%>
支 出	保険給付費 <伸び率>	58,117	(+2,366) <4.2%>	60,016	(+1,899) <3.3%>
	[医療給付費]	[52,652]	(+2,251)	[54,433]	(+1,781)
	[現金給付費]	[5,464]	(+115)	[5,583]	(+118)
	拠出金等 <伸び率>	34,913	(+1,235) <3.7%>	34,992	(+79) <0.2%>
	[前期高齢者納付金]	[15,495]	(+610)	[15,268]	(▲227)
	[後期高齢者支援金]	[18,352]	(+653)	[19,516]	(+1,164)
	[退職者給付拠出金]	[1,066]	(▲27)	[208]	(▲858)
	その他	1,969	(+164)	2,505	(+537)
計 <伸び率>	94,998	(+3,765) <4.1%>	97,513	(+2,515) <2.6%>	
単年度収支差		4,486	(▲500)	5,948	(+1,462)
準備金残高		22,573	(+4,486)	28,521	(+5,948)
保 険 料 率		10.00%	(±0.0%)	10.00%	(±0.0%)

賃金の動向

(万円)

	29年度	30年度
平均標準報酬月額 <被保険者1人当たり>	28.5 (+0.6%)	28.8 (+1.2%)

医療費の動向

(万円)

	29年度	30年度
1人当たり保険給付費 <加入者1人当たり>	15.1 (+1.7%)	15.3 (+1.7%)
(再掲) [1人当たり医療給付費]	[13.6] (+1.9%)	[13.9] (+1.8%)

加入者数等の動向

(万人)

	29年度	30年度
加 入 者 数	3,859.7 (+2.5%)	3,919.7 (+1.6%)
被 保 険 者 数	2,299.7 (+3.9%)	2,361.0 (+2.7%)
扶 養 率	0.678	0.660

注) 端数整理のため、計数が整合しない場合がある。また、数値については今後の国の決算の状況により変動し得る。

収入は 10兆 3,461億円

⇒ 被保険者の人数や賃金の増加により保険料収入が増加。前年度比は3,977億円の増加(+4.0%)となった。

- 保険料収入は3,455億円増加した。保険料を負担する被保険者の「人数(被保険者数)」が増加(+2.7%)したこと、「賃金(標準報酬月額)」が増加(+1.2%)したことが主な要因。この結果、30年度の保険料収入の伸び率は+3.9%となった。なお、賃金の伸び+1.2%は、協会による医療保険の運営が始まった20年度以降で最も高い伸びとなったが、近年、保険料収入を増加させていた被保険者の人数の伸びについては、29年度(9月)をピークに急激に鈍化している。＜詳細は5ページを参照＞
- 国庫補助等は507億円増加した。補助対象となる保険給付費(総額)が増加したことなどが要因。

支出は 9兆 7,513億円

⇒ 加入者の増加等により保険給付費が増加したものの、前年度比は2,515億円の増加(+2.6%)にとどまった。

- 支出の6割に相当する保険給付費(総額)は、1,899億円の増加にとどまり、伸びは+3.3%と、前年度の伸び(+4.2%)を下回った。これは、加入者の「人数(加入者数)」の伸びが鈍化したこと(29年度:+2.5%→30年度:+1.6%)に加えて、診療報酬のマイナス改定(▲1.19%)により「医療費(加入者1人当たり医療給付費)」の伸びが抑制され、横ばいになったこと(29年度:+1.9%→30年度:+1.8%)が主な要因。＜詳細は5ページを参照＞
- 高齢者医療にかかる拠出金等(総額)も、79億円の増加(+0.2%)にとどまった。これは、高齢者医療費の伸びによる後期高齢者支援金の増加はあるものの、診療報酬のマイナス改定に加えて、退職者給付拠出金が858億円減少(▲80.5%)したことや、マイナス精算(拠出金等の概算納付分の戻り)の影響によるものである。なお、30年度の拠出金等の増加を抑制した大きな要因である退職者給付拠出金の減少は、退職者医療制度廃止に伴うものであるが、今後、この影響はなくなり、拠出金等は年々増加するものと見込んでいる。＜詳細は6ページを参照＞

この結果、30年度の収支差は5,948億円となり、前年度比は1,462億円の増加となった。

- 収支差が前年度比で増加(+1,462億円)した要因は、保険料収入等の収入の増加に対し、保険給付費や拠出金等の支出の増加が下回ったことによるものである。
- しかしながら、収入の増加については、近年、保険料収入を増加させていた被保険者の人数の伸びが急激に鈍化していることに加え、賃金についても今後の経済の動向は不透明であること、支出についても診療報酬のマイナス改定や制度改正の影響(退職者医療制度の廃止)等により、一時的に増加が抑制されている側面があることに加え、今後の高額薬剤の保険収載等も踏まえると、協会けんぽの財政は引き続き楽観を許さない状況である。
- なお、30年度末の準備金残高は2兆8,521億円となった。この金額は、保険給付費等に要する費用の3.8ヵ月分に相当する。

2. 協会の30年度決算報告書(介護保険分を含む)の概要

< 協会決算 >

(億円)

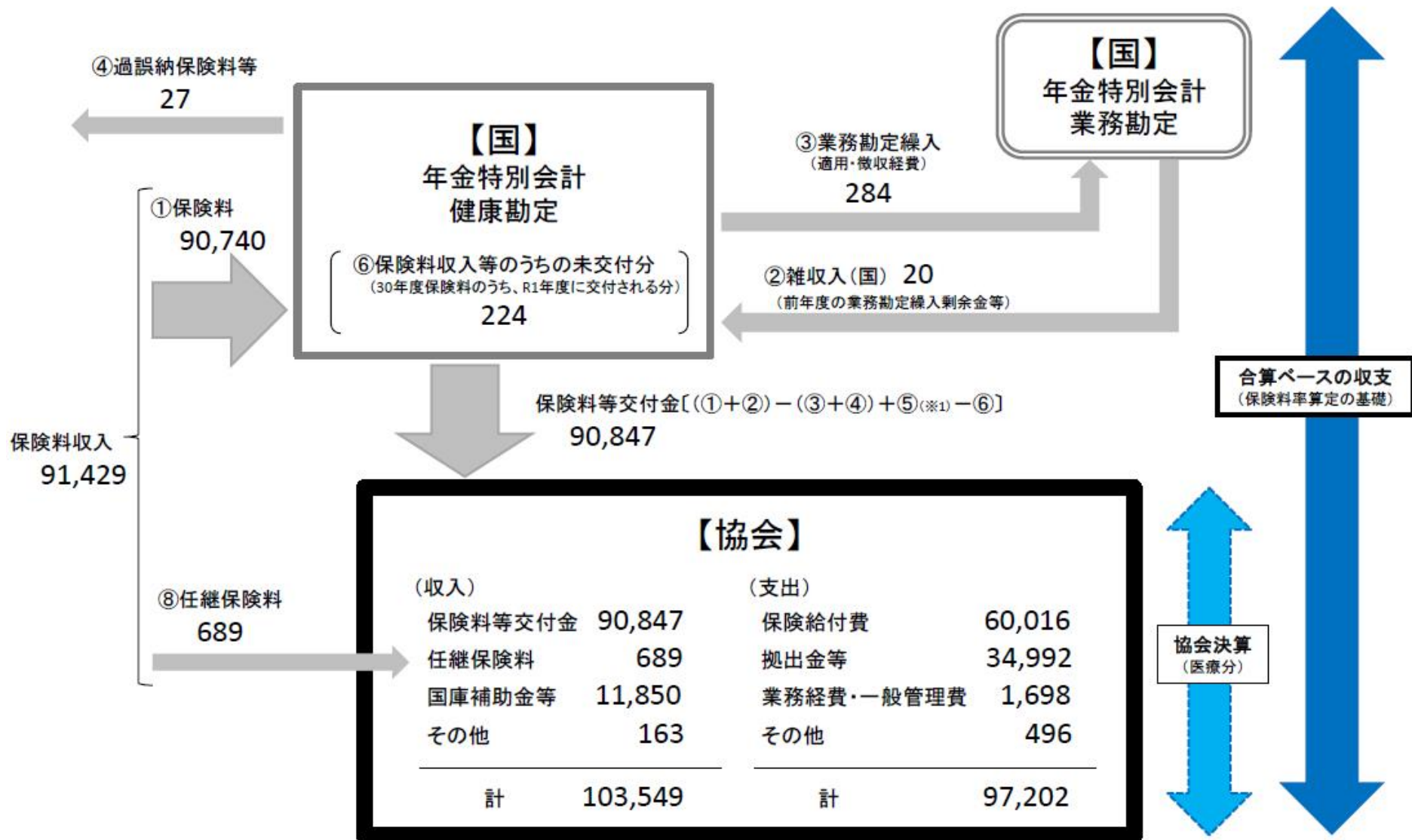
		(a) + (b)	医療分(a)	介護分(b)
収入	保険料等交付金	99,605	90,847	8,759
	任意継続被保険者保険料	732	689	43
	国庫補助金等	12,729	11,850	879
	その他	163	163	0
	計	113,229	103,549	9,681
支出	保険給付費	60,016	60,016	0
	拠出金等	34,992	34,992	0
	介護納付金	10,130	0	10,130
	業務経費・一般管理費	1,698	1,698	0
	その他	514	496	18
計	107,350	97,202	10,148	
収支差		5,879	(※) 6,346	▲ 467

注) 1. 「協会決算」における医療分の収支差((※)6,346億円)と、「協会会計と国の特別会計との合算ベース」(P.1)における収支差5,948億円との差異(398億円)は、国に留保されている未交付分保険料によるものである。具体的には、29年度末時点で未交付となっていた622億円が30年度に交付された一方で、30年度末時点で未交付となった224億円が令和元年度の交付となることによるもの。
 なお、これらの未交付分は保険料率の算定には影響しない。(398億円 = 622億円 - 224億円)

2. 端数処理のため、計数が整合しない場合がある。

3. 合算ベースの収支(協会会計と国の特別会計との合算)と協会決算との相違(30年度医療分)

(単位:億円)

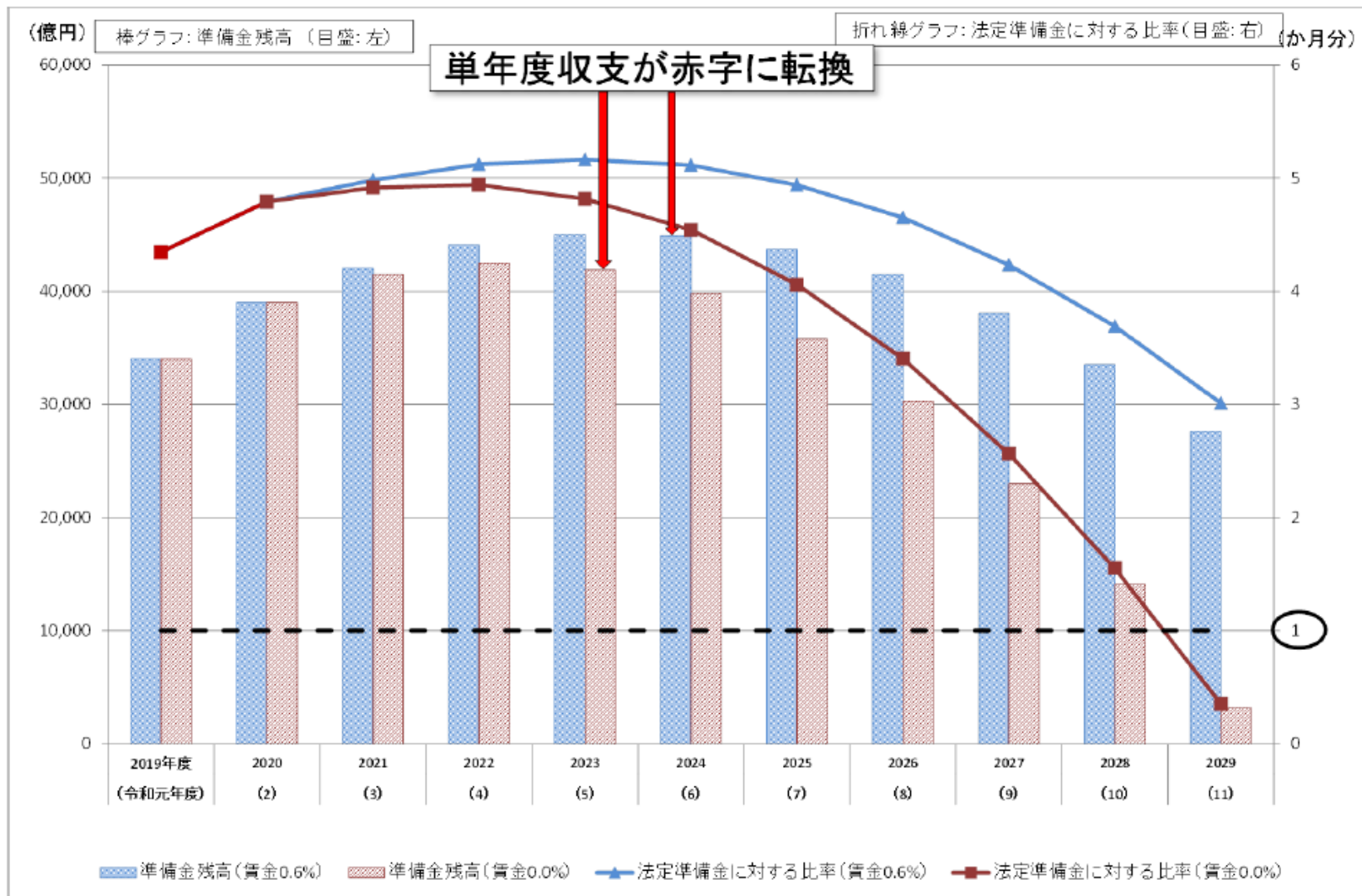


(※1) ⑤は29年度保険料等のうち、30年度に協会に交付された交付金(622)

(※2) 端数処理のため、計数が整合しない場合がある。

平均保険料率10%を維持した場合の準備金残高と法定準備金に対する残高の状況 (平成30年度決算(見込み)に基づくごく粗い試算)

協会けんぽ(医療分)の平成30年度決算(見込み)に基づき、賃金上昇率が「2021年度以降0.6%」、「2021年度以降0.0%」のそれぞれの場合について、平均保険料率10.0%を維持したときの今後10年間(2029年度まで)の各年度末における協会けんぽの準備金残高と法定準備金に対する残高の状況に係るごく粗い試算を行った。



注1 「法定準備金」とは、健康保険法により協会が毎事業年度末において積み立てなければならないとされている、保険給付費及び拠出金等の1ヵ月分に相当する額のことである。

2 医療費の伸び、並びに、2019、2020年度の加入者数の伸び及び賃金上昇率は近年の実績等を用いている。

4. 平成30年度 宮城支部 収支決算について

平成30年度宮城支部の収支決算(暫定版)

(百万円)

	収入						支出															収支差				
	保険料収入		その他収入	計			医療給付費(調整後)(国庫補助を除く)									現金給付費等(国庫補助等を除く)	前期高齢者納付金等(国庫補助を除く)	業務経費(国庫補助を除く)	一般管理費(国庫負担を除く)	その他支出	平成28年度の収支差の精算	特別計上分(業務経費の別掲)	計	計	全国平均分	地域差分
	一般分	債権回収以外					債権回収	医療給付費			年齢調整額	所得調整額	激変緩和													
			(A)-(B)	医療給付費(A)	災害特例分(B)	平成28年度の協会負担分(B1)		波及増分(B2)																		
宮城	165,366	165,332	270	108	162	165,636	84,877	92,050	92,050			▲2,181	▲4,718	▲273	7,269	59,204	2,221	677	607	436	3	155,295	10,341	10,705	▲364	
全国計	9,142,915	9,140,996	17,973	6,007	11,966	9,160,889	4,677,382	4,677,382	4,681,495	1,895	2,219	-	-	-	403,926	3,289,872	123,436	37,643	33,721	-	73	8,566,054	594,835	594,835	-	

(注)

- 年齢調整額、所得調整額、激変緩和のマイナスは調整額を受け取る支部、プラスは調整額を負担する支部。
- 債権回収は、資格喪失後受診に係る返納金、業務上傷病による受診に係る返納金、診療報酬返還金、損害賠償金に係る債権の回収額の実績を表す。
- 医療給付費は、東日本大震災等による窓口負担減免措置に伴う平成30年度の協会負担分に係る窓口負担減免額を含む。
- (B1)は、健康保険法施行規則第135条の2の2第2項第1号に基づき、東日本大震災及び熊本地震に伴う平成28年度における協会負担分の窓口負担減免額のうち、総報酬額の0.01%を超える部分として、(A)から控除するものである。また、(B2)は、東日本大震災等に伴う窓口負担減免措置によって医療費が増加した分のうちの医療給付費分(国庫補助を除く。波及増分)を表す。
- 「平成28年度の収支差の精算」は、平成28年度の都道府県支部ごとの収支における収支差の精算(健康保険法施行規則第135条の7に基づき行うもの)を表す。
- 国の年金特別会計に係る分並びに東日本大震災による窓口負担減免措置に伴う波及増分(B2)が暫定値であるため、数値は今後変わらう。

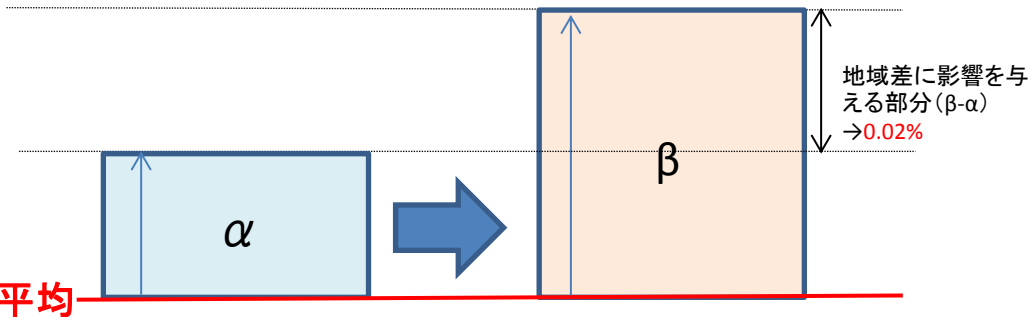
【医療給付費等地域差分とその保険料率換算(試算)について】

- 医療給付費等地域差分がマイナスになった宮城支部の場合は、令和2年度の保険料率算定の際に364百万円支出に加算される。(概ね0.02%程度)
- 令和2年度保険料率算定の際の精算に係る保険料率は、平成30年度の支部の収支差(地域差分)を令和2年度の総報酬額の見込額で除したものであるため、平成30年度の総報酬額の実績で除したものと異なる。

宮城支部の地域差分のイメージ(参考)

地域差分は、2年度前の実績の28年度の加入者数や医療給付費をもとに見込んでいる、支部の30年度の加入者1人当たり医療給付費において、全国平均と比べて高いとされた差が実績でどう変化したかを表したもの(実績の全国平均との差 - 料率算定時の全国平均との差)

<加入者1人当たりの医療給付費>



<ポイント>

保険料率算定時は医療給付が全国平均と比べて α 分だけ高く見込んでいたが、実績では全国平均より β 分高くなり、その結果、($\beta - \alpha$ 分)が地域差に影響を与える部分となる。
→平成30年度の収支差においては保険料率換算で**0.02%**になる

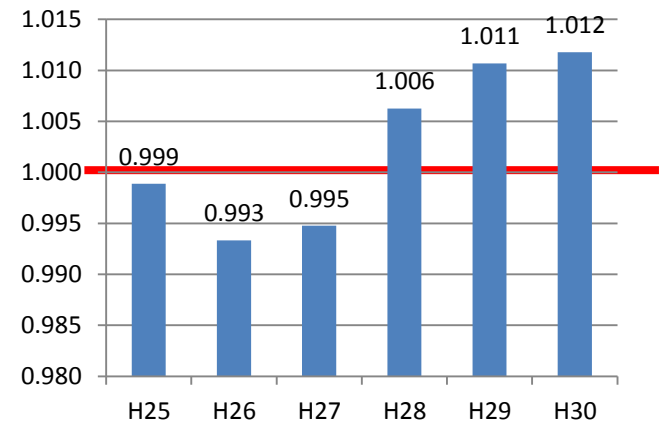
全国平均

30年度料率算定時※
(見込み)

30年度支部別収支
(実績)

※29年8月までの実績を用いた29年度の推計値を基礎として、26~28年度の伸びを用いて推計

<宮城支部加入者1人当たりの医療給付費推移
(全国平均を1とした場合)>



※医療給付費に年齢調整額を差し引いたもの

5. 平成30年度宮城支部特別計上分に係る経費

医療費適正化について

	事業名	予算額(A)	精算額(B)	残額(A-B)	実施内容及び差異説明
医療費適正化	資格喪失後受診者への返納金納付督促等架電業務	2,567千円	2,459千円	108千円	(事業内容)速やかな回収のため、納付書、催告書、証回収催告文書送付時にあわせて、接触率の高い夜間・休日の時間帯に外部委託業者より架電を実施。 (差異)見積もり競争を実施する等、経費削減に努めたため。(委託費)
	医療事務担当者説明会の実施	432千円	153千円	279千円	(事業内容)医療事務担当者の健康保険制度の知識の向上や、レセプト事務の適正化、医療機関との連携強化等を目的として、医療機関の医療事務担当者を対象とした説明会を開催。 (差異)資料印刷を外部委託ではなく、支部にておこなったため。
	合計	2,999千円	2,612千円	387千円	

その他保健事業について

事業名	予算額(A)	精算額(B)	残額(A-B)	実施内容及び差異説明
職場健康づくり宣言事業所に対する事後フォローのための情報提供事業	2,657千円	382千円	2,275千円	(実施内容)1,273事業所に対して事後フォローのための情報提供を外部委託により実施。 (差異)見積もり競争を実施する等、経費削減に努めたため。(封入・封緘等業務委託、支援ツール作成)
職場健康づくり宣言事業所拡大による健康経営の普及啓発推進事業	1,406千円	1,143千円	263千円	(実施内容)「職場健康づくり宣言」制度の普及促進を図るため、パンフレット作成や新聞社等の各種広報の展開を実施。 (差異)見積もり競争を実施する等、経費削減に努めたため。(制度周知用パンフレット作成)
健康経営セミナーの開催	108千円	3千円	105千円	(実施内容)商工会議所およびアクサ生命と連携しセミナーを5回開催。 (差異)商工会議所およびアクサ生命と連携して開催することにより、当支部職員の旅費以外の費用がかからなかったため。
職場のメンタルヘルス対策相談委託事業	870千円	487千円	383千円	(実施内容)被保険者及び事業所担当者を対象としたメンタルヘルスカウンセリング業務の実施。 (差異)予定件数70件に対して実施件数は58件に留まったため。
合計	5,041千円	2,015千円	3,026千円	

5. 平成30年度宮城支部特別計上分に係る経費

広報・意見発信について

	事業名	予算額(A)	精算額(B)	残額(A-B)	実施内容及び差異説明
紙媒体による広報	納入告知書同封チラシ (月刊協会けんぽみやぎ作製代)	2,198千円	1,063千円	1,135千円	(事業内容)加入事業者向け毎月平均39,000部広報誌を作製。 (差異)年間まとめて一般競争入札で印刷業者を決定したため。
	事業案内リーフレット等の作成	432千円	0千円	432千円	(事業内容)新規適用事業所講習会、算定事務講習会等の際に配布。 (差異)既存資料で対応できたため、未執行。
	任意継続保険加入のご案内セット	76千円	0千円	76千円	(事業内容)年度末等に退職者が多い事業所へ事前に左記のセットを 配布し郵送化の促進を図る。 (差異)既存資料で対応できたため、未執行。
	医療機関向け周知用ポスターの作成	432千円	119千円	313千円	(事業内容)保険証回収や限度額証等のポスターを作成し、医療機関 に対して配布する。 (差異)見積もり競争を実施する等、経費削減に努めたため。
	医薬品実績リスト	0千円	168千円	▲168千円	(事業内容)宮城支部加入者の間で多く使用されているジェネリック医薬 品のリストを作成し、県内調剤薬局に配布する。 (差異)当初予定していなかったため。
	減塩推奨手提げバック	0千円	130千円	▲130千円	(事業内容)減塩を促す内容が記載された手提げバックを作成し、事務 説明会等の際に配布する。 (差異)当初予定していなかったため。
	合計	3,138千円	1,480千円	1,658千円	

	事業名	予算額(A)	精算額(B)	残額(A-B)	実施内容及び差異説明
地方自治体や関係団体との連携強化	経済団体の会報を活用した周知広報	938千円	0千円	938千円	(実施内容)各経済団体が発行する会報に、協会けんぽの広告掲載お よびチラシ等の折り込みを実施。 (差異)経済団体との交渉により全て無料で実施できたため、未執行。
	「知ってお得な健康情報&塩ecoキャンペーン」の開催	286千円	0千円	286千円	(実施内容)連携協定先等5団体と同時に減塩にかかる健康づくりイベ ントを大型ショッピングモールにて実施。 (差異)宮城県や会場の自治体に参加していたため、公的イベントの 扱いで行え、費用がかからなかったため、未執行。
	地域医療に関する意見発信のための加入者アンケート	104千円	71千円	33千円	(実施内容)地域の医療提供体制について、協会けんぽとして意見発 信していくにあたり、加入者の声を代弁するためにも地域 医療構想の策定内容に対するアンケート調査を行い、意 見発信の資料を作成することを目的とする。 (差異)アンケート印刷を外部委託ではなく、支部にておこなったため。
	産業衛生学会における協会けんぽの取組PR	0千円	14千円	▲14千円	(事業内容)協会けんぽの認知度向上および、産業界を介した事業所 における健康づくりの推進のため、産業界の先生方が集まる 第77回日本産業衛生学会東北地方会において協会けん ぽ宮城支部の取組み等を発表した。 (差異)当初予定していなかったため。
	合計	1,328千円	85千円	1,243千円	